

### 33 わが国の慢性心不全患者の予後に対する生活習慣の及ぼす影響についての解析

研究代表者名：筒井裕之<sup>1)</sup>

共同研究者名：竹下 彰<sup>2)</sup>、北畠 顕<sup>3)</sup>、小川 聡<sup>4)</sup>、白土邦男<sup>5)</sup>、永井良三<sup>6)</sup>、和泉 徹<sup>7)</sup>、藤原久義<sup>8)</sup>、友池仁暢<sup>9)</sup>、堀 正二<sup>10)</sup>、横山光宏<sup>11)</sup>、吉川純一<sup>12)</sup>、松崎益徳<sup>13)</sup>、今泉 勉<sup>14)</sup>、山崎 力<sup>15)</sup>、溝上哲也<sup>16)</sup>、JCARE 研究班

施設名：北海道大学大学院循環病態内科学<sup>1)</sup>、麻生飯塚病院<sup>2)</sup>、医療法人社団カレスサッポロ<sup>3)</sup>、慶應義塾大学内科学<sup>4)</sup>、医療法人社団仁明会齋藤病院<sup>5)</sup>、東京大学大学院循環器内科学<sup>6)</sup>、北里大学内科学第2<sup>7)</sup>、岐阜大学第2内科学<sup>8)</sup>、国立循環器病センター<sup>9)</sup>、大阪大学大学院病態情報内科学<sup>10)</sup>、神戸大学大学院循環呼吸器病態学<sup>11)</sup>、大阪市立大学内科学第1<sup>12)</sup>、山口大学大学院器官制御医科学<sup>13)</sup>、久留米大学第3内科<sup>14)</sup>、東京大学クリニカルバイオインフォマティクス<sup>15)</sup>、九州大学大学院予防医学<sup>16)</sup>

慢性心不全は高血圧、虚血、心筋症など器質的心疾患の終末像であり、その発症・進展には高血圧、糖尿病、高脂血症、喫煙など生活習慣に関連した因子が密接に関与する。しかしながら、わが国では循環器領域において多施設を対象とした疫学研究データが極めて乏しいため、慢性心不全患者の臨床像、治療内容、予後などの実態が全くわかっていない。したがって、わが国では心不全における生活習慣病の意義については十分に検討されていない。欧米で行われた研究結果をそのまま人種も年齢構成も異なるわが国の患者にあてはめることができないのは言うまでもなく、わが国独自の大規模な登録研究が必要である。このような研究は、未曾有の高齢化社会を迎え、さらに生活の欧米化に伴い生活習慣病が増加している我が国においてこそ取り組むべき緊急度の高い研究課題である。

我々は、7年前より福岡市において慢性心不全の診断にて入院治療を受けた患者、さらに2年前より福岡

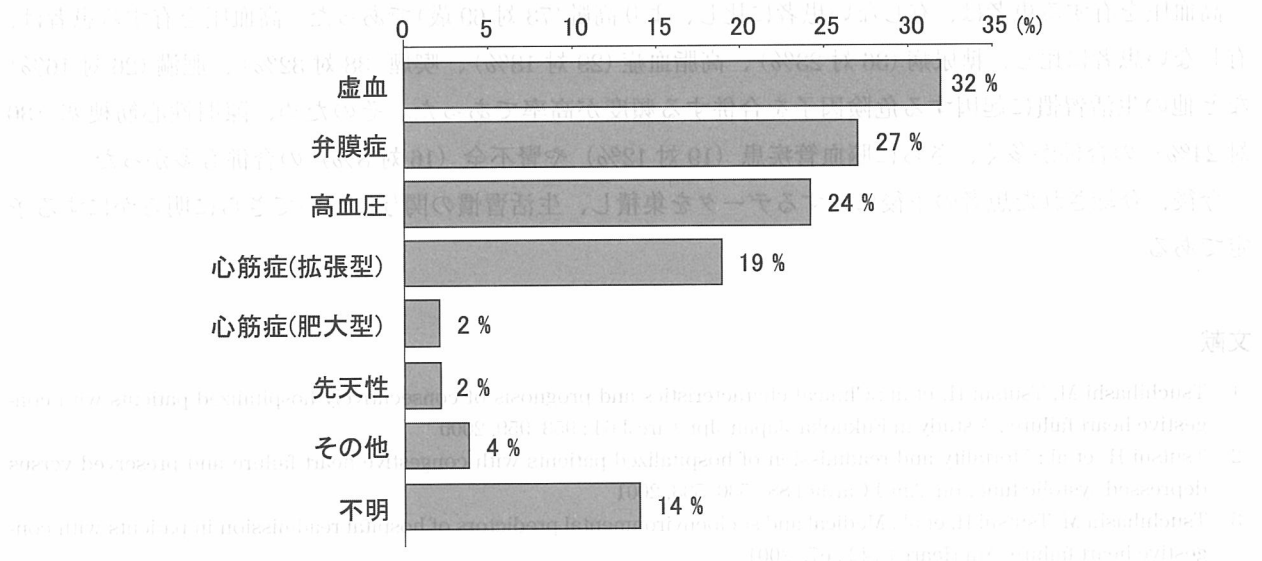


図1 慢性心不全：基礎心疾患

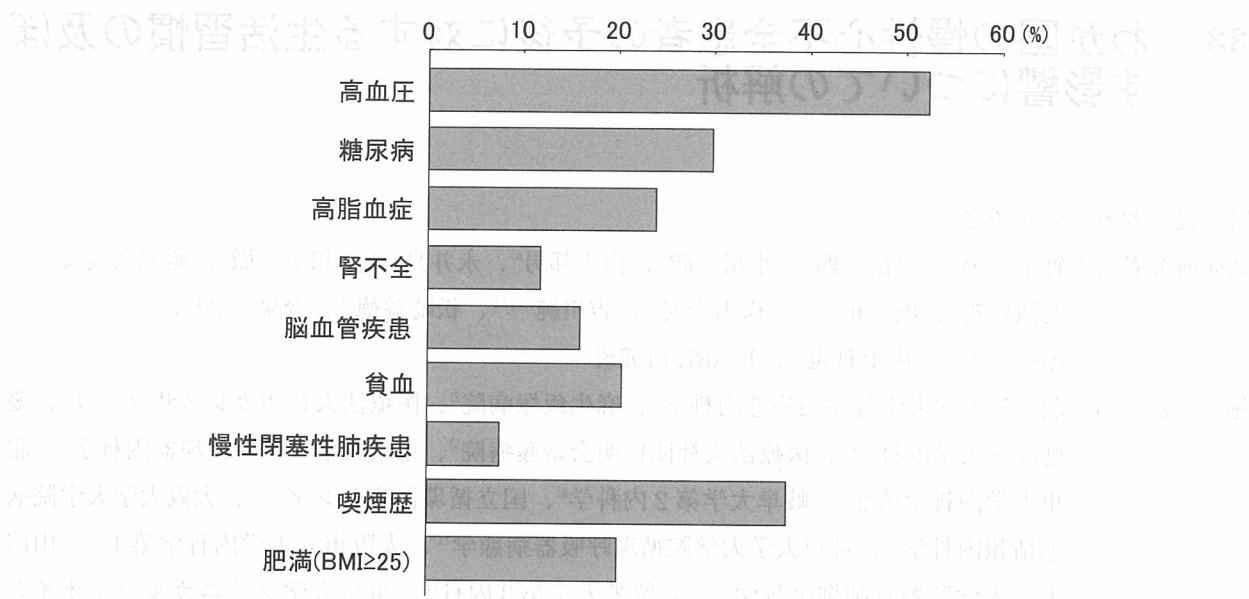


図2 慢性心不全：合併疾患

市東区（人口 23 万人）において開業医も含め内科・循環器科外来で治療を受けている患者を登録し予後調査を行ってきた。さらに「慢性心不全の増悪のため入院治療を要する患者を対象とした調査研究（JCARE-CARD 研究）」を 2004 年 1 月より開始している。本研究は、全国規模で多数かつ幅広い重症度の患者を登録し、より実際の患者像を反映した解析を行うこと、さらに心不全患者の臨床病態、治療内容、予後に関するデータを解析することを目的としている。

本研究の中間解析で得られた 1729 例（男女比 6：4、平均年齢 71 歳、75 歳以上 47%）を対象として、慢性心不全における生活習慣病の役割を解析した。基礎心疾患の内訳は、虚血 32%、弁膜症 27%、高血圧 24% が主たるものであった（図 1）。生活習慣に関する因子としては、高血圧が 52% と最も多くをしめ、次いで糖尿病を 30%、高脂血症を 24%、喫煙を 35% にみとめた（図 2）。さらに、全患者の 38% で何らかの生活習慣病を、30% で 2 つ以上の生活習慣病の重積をみとめた。

高血圧を有する患者は、有しない患者に比し、より高齢（73 対 69 歳）であった。高血圧を有する患者は、有しない患者に比し、糖尿病（36 対 23%）、高脂血症（29 対 18%）、喫煙（38 対 32%）、肥満（26 対 16%）など他の生活習慣に起因する危険因子を合併する頻度が高率であった。そのため、陈旧性心筋梗塞（30 対 24%）の合併が多く、さらに脳血管疾患（19 対 12%）や腎不全（16 対 8%）の合併も多かった。

今後、登録された患者の予後に関するデータを集積し、生活習慣の関与についてさらに明らかにする予定である。

## 文献

- 1) Tsuchihashi M, Tsutsui H, et al : Clinical characteristics and prognosis of consecutively hospitalized patients with congestive heart failure : A study in Fukuoka, Japan. Jpn Circ J 64 : 953-959, 2000
- 2) Tsutsui H, et al : Mortality and readmission of hospitalized patients with congestive heart failure and preserved versus depressed systolic function. Am J Cardiol 88 : 530-533, 2001
- 3) Tsuchihashi M, Tsutsui H, et al : Medical and socioenvironmental predictors of hospital readmission in patients with congestive heart failure. Am Heart J 142 : e7, 2001